

## 天間北の

# 瘡守稲荷さん

かさもり

平成元年五月五日号

天間北の富士宮市との境にある瘡守稲荷神社は、皮膚病などに靈験あらたかといわれています。今回は、この神社のお話を、天間北の白井政吉さん（白井政吉さん）を初めとする四人の長老の皆さんに教えていただきました。

## 皮膚病を治す神様

天間北地区は今でこそ住宅地となつていますが、昔は戸数も少ない寒村でした。

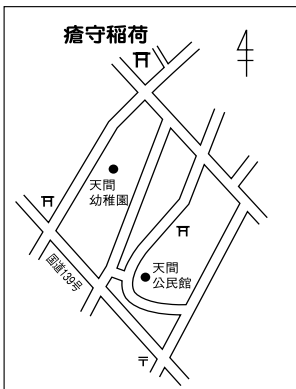
明治二十年ごろのことです。地域の住民渡辺庄五郎さんという人が、屋敷神として稲荷神社のほこらを建て、祭りました。

そのころ天間に、できもののできる皮膚病がはやりました。困り果てたある人が渡辺さんの屋敷神に祈ると、不思議なことにできものはみるみるすぼみました。

## 地域の氏神に

それから、うわさを聞いた人々が我も我もと押しかけ、稲荷神社は皮膚病に靈験あらたかとして、住民の信仰を集めました。

また、トラホームがはやつたときにもご利用



益があつたことから、明治二十六年ごろになつて地域の氏神として永久に祭ることになり、社殿を現在地に建て、瘡守稻荷神社と改称しました。



▶ 瘡守稻荷神社（平成十四年一月撮影）

## 鳥居が三十基

お祭りは毎年二月の初午に行われ、初めのころは草競馬や弓を引いたり、露店や芝居小屋が出ました。三十基ぐらいあつた鳥居の前には「瘡守大明神」と書かれた旗が約二百本並び、遠く由比・蒲原からお参りする人がありました。

## 続いていゝお祭り

現在は、鳥居一基に小さな社殿があるだけで、昔の面影はありません。お祭りは二月の初午はつうま近くの日曜日に行われています。子どもたちが「瘡守大明神」と書いた旗をつくり、持っていくと、おこわをおひねりにしてもらえます。

語ってくれた方

白井政吉さん 原 隆さん  
白井和夫さん 望月 実さん